

佳賓好主（佐藤一斎）

月訪梅花爲好主 梅邀月影作佳賓
佳賓好主兩雙絶 管領黄昏一刻春

月は 梅花を 訪うて 好主と 為し

解説 春の夕の梅と月を詠ったもの。

梅は 月影を 邀えて 佳賓と 作す

語釈 ※月影Ⅱ月の光。※双絶Ⅱ二つのすぐれたもの。すぐれた風景。
※管領Ⅱ支配する。自分のものとする事。※黄昏Ⅱたそがれ。夕方
のうす暗い時刻。

佳賓 好主 両つながら 双絶

通釈 月は、満開の梅花を訪ねて来て、好い主人であるとし、梅は、

月を迎えてよい賓客であるとしている。明るく照らし出す月影、芳香
を漂わせる梅の花とは、好一对のすぐれた風景である。かくしてこの
月と梅花は、春のたそがれどきの一刻を、わがものとしてしているのであ
る。

管領す 黄昏 一刻の 春